



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

チャーミングなファーストペンギンになろう

みなさんは、先入観から離れて、自分自身の進路を考え、「自分で決める力」を付けようとしていますか？

幸福感を左右するのは、選択の場面で自分で決定できたかどうかだと言います。

例えば、「なぜゲームは楽しいのでしょうか」。よく保護者の方から「うちの子はゲームばかりやって、勉強をしません。先生、どうしたらよいのでしょうか」という相談を受けます。私は、その際、「なぜゲームが楽しいのか」という本質について話します。「ゲームの中には、自分で決める経験がたっぷりあるから楽しいのだと思いますよ。楽しくないようにするには、すべて教えてしまうことですね」。



私が小学生の頃は、今のゲームではないですが、遊びがそうでした。真っ暗になって、ボールが見えないのに空き地で野球をしていました。グラウンドではない空き地なので、たくさんの自分たちで決めたルールがありました。「あの崖からボールが落ちたら、アウトね」とか「あの高さのところにボールが当たったら、ツーベースね」とか（笑）。自分たちで決めると楽しくて時間も忘れるくらいに真剣に取り組むのです。そして、それは幸せな時間なのです。

さて、「自分で決める力」を付けるためには・・・とりあえず、歴史的に見る、うまくいかない2つの要素について話します。

①「思い込み・先入観」の存在 ②「これまで通りで何とかなるだろう」という行動不足

この2つを克服するために、いくつかのマインドセットが必要です。

まずは、「ファーストペンギンマインド」をもつことです。

何かをやる前に、「やる意味があるのか」「将来役に立つのかな」を考えないということです。また、「完璧にやりたい」も必要ありません。うまくいかなかったら修正していく力の方が大切になります。そして、「できない理由」を考えないということです。「できない理由」は0.2秒でいくらでも思いつくと言われています。

次に、「失敗したくないんです」からの卒業です。

とにかく「おもしろがる」「試す」「失敗（未成功）から学ぶ」というマインドです。完璧主義からの卒業とも言えます。

最後に、「応援され力」を身に付けてほしい。自分の力を補う他者の力は必ず必要になります。そのためには、「応援したい」と思われなくてはなりません。私がよく言う「人たらしになろう」の事です。ポイントは、「あいさつ」「お礼」「真剣さ」「ひたむきさ」「笑顔」です。

私は、ここまでの話をまとめて、女学院のみなさんには、なってほしい人のキャッチフレーズをつくりました。それは、「チャーミングなファーストペンギンになろう！」です。「チャレンジ」と「応援される力」を合わせた意味です。

でも、このような話をしても、実際そうする人はどれくらいいるのでしょうか。

重要なのは実際の行動です。考える前に、「1回」「1個」「1問」「1ページ」の行動がカギを握ります。とりあえずやり始めることが大切なのです。「やる気は後からついてくる」（この言葉は、私の座右の銘でもある）。

実は研究結果で、「読んでみたら？調べてみたら？行ってみたら？食べてみたら？やってみたら？」と言われて実際やる人は2%だと言われています。50人に1人です。

女学院生はその「2%の人になろう！」

ファーストペンギンとは？

「ファーストペンギン」とは、集団で行動するペンギンの群れの中から、天敵がいるかもしれない海へ、魚を求めて最初に飛びこむ 1 羽のペンギンのこと。転じて、その“勇敢なペンギン”のように、リスクを恐れず初めてのことに挑戦するベンチャー精神の持ち主を、敬意を込めて「ファーストペンギン」と呼びます。

（学校長 重枝 一郎）